

7) ウシ血漿中の Cold Insoluble Globulin の精製とその性質について

鈴木宏治・中村 伸・岩永貞昭
日本生化学会第48回大会 (1975)

系統研究部門

江原昭善・野上 裕生
相見 満・瀬戸口烈司

系統研部門は50年度に新設され、年度末までに人事がととのった。部門としての研究は51年度から始まる。

研究概要

1) 霊長類各分類群の形態特徴の系統発生的研究

江原昭善

1. 頭部支持機構の比較形態学的研究 (前年度からの続き)
2. ヒトを含む霊長類下顎角の発達機能の形態学的分析

1974年来、霊長類各群の間で Prognathie と Subgnathie の形態学的相異を指摘してきたが (Z. Morph. u. Anthropol.), それと下顎角の相関関係を分析し、さらに食性との機能的関連を吟味する (江原・茂原)。

3. ヒトを含む霊長類の爪の組織学的研究 (江原・H. Rothe・松本)

2) 昭和50年度日独科学者交流事業によるゲッティンゲン大学客員教授

江原昭善

3) 東南アジアの地史学的研究

野上裕生

霊長類進化の背景として東南アジアの地史を吟味する。

4) 霊長類の歯の内部構造の研究

野上裕生

現生および化石霊長類の歯を収集し、内部構造を比較検討して系統を明らかにする。

5) 日本産ヤチネズミ類 (ゲツ歯目) の分類学的研究

相見満

日本の哺乳動物相の現情ならびにその成立過程の研究の一環として、最新世中期～現世における変遷を調査する。

6) 現生各種霊長類の比較形態学的研究

相見満

おもに骨格をとりあげ、個体の成長過程を通じて、その種の特徴がどのようにして出現するかを追求する。

7) 第三紀の食虫類、原猿類および有袋類の研究

北アメリカのワイオミングより産出する第三紀前期の哺乳類の適応放散について検討すると同時に、研究・教育の基礎となる骨格模型を収集した。

総説

- 1) 江原昭善 (1975): 新脳化か 大脳化か, 生物科学28 (1)
- 2) 江原昭善 (1975): 形態, 臨床医学11 (6)
- 3) 野上裕生 (1976): 先史への発掘, 大陸書房, 東京
- 4) 瀬戸口烈司 (1975): 哺乳動物の社会進化についての試論, 季刊人類学 6

論文

- 1) 江原昭善 (1975): 前鼻棘 (Spina nasalis anterior) の同定について, 人類学雑誌83 (5), 179-190
- 2) SEROCUCHI, T. (1975): Paleontology and Geology of the Badwater Creek Area, Central Wyoming. Part 11. Late Eocene Marsupials. *Ann. Carnegie Mus.*, 45 (13), 263-275.

報告その他

- 1) 江原昭善 (1975): 猿人アウストラロピテクス——シリーズ
 1. サルとヒトのミッシング・リンク, 自然30 (3), 61-70
 2. 人類の影を求めて, 自然30 (4), 75-83
 3. はがれゆくヴェールの奥に, 自然30 (5), 78-87
 4. 偏見と事実の谷間で, 自然30 (6), 83-93
 5. 地溝帯のアダムを求めて, 自然30 (7), 79-89
 6. アダムの虚像と実像をめぐって, 自然30 (8), 76-86
 7. 破局と新生, 自然30 (12), 67-77
- 2) 江原昭善 (1976): ネアンデルタール人は直系の祖先, 科学朝日36 (2), 61-65
- 3) EHARA, A. (1976): Beziehung zwischen Primatologie und Anthropologie, Vortrag für Anthropologen und Anatomen, gehalten am 11. Feb. 1976 in dem Lehrstuhl für Anthropologie, Göttingen-Universität.
- 4) NOGAMI, Y. (1975): Jungpaläozoische Mikrofossilien von Indonesia, Vortrag für Geologen und Paläontologen, gehalten am 8. Apr. 1975 in dem Lembaga Geologi dan Pertambangan Nasional, Indonesia.
- 5) 野上裕生 (1975年): インドネシアの自然科学について, 京都大学東南アジア研究センター